



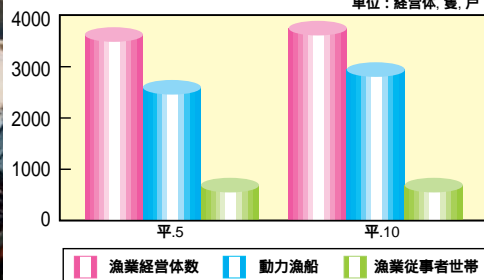
その3
農林水産部

第10次漁業センサスの概要



獲れたばかりの魚の水揚げ

漁業経営体数、動力漁船隻数及び漁業従事者世帯数
単位：経営体、隻、戸



第十次漁業センサスが平成十年十一月一日現在で実施され、この結果概要が本年八月三十一日に公表されました。

漁業センサスは、沖縄総合事務局、沖縄県、各市町村との協力により実施しました。

本県における漁業センサスは、本土復帰後の昭和四十八年十一月一日に実施した第五次漁業センサスを初回とし、今回の第十次漁業センサスは六回目となります。



クロカンパチの養殖



魚市場のセリ風景

漁業センサス

漁業の生産構造、就業構造、背後条件等を明らかにすることを目的に、五年ごとに行う調査で、「漁業の国勢調査」とも言われているものであり、調査結果は、今後における水産行政諸施策の基礎資料として活用されることはもちろんのこと、地域の漁業振興や開発にとって重要な資料となります。



マグロのセリ風景

1 海面漁業の生産構造

漁業経営体数、動力漁船隻数及び漁業従事者世帯の動向

漁業経営体数は、三千六百四経営体で前回(平成五年、以下同じ)より百四十一経営体(四%)の減少となりました。

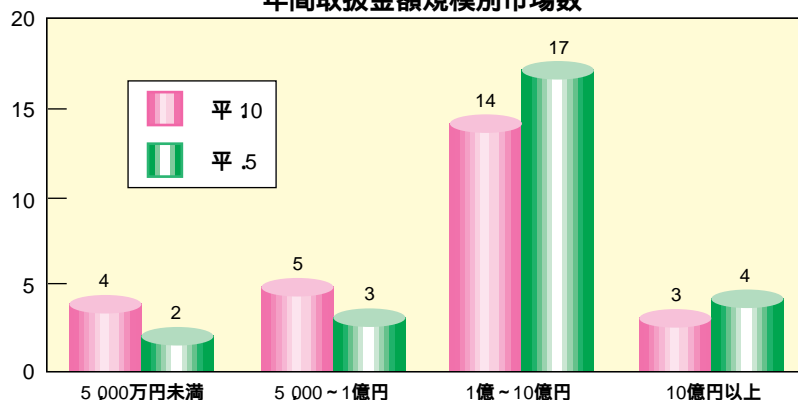
動力漁船隻数は、二千七百五十一隻で、前回より二百八十八隻(八%)の減少となりました。

漁業従事者世帯数は、七百三十八世帯で、前回より九世帯(一%)の増加となりました。

Fishery

(億円)

年間取扱金額規模別市場数



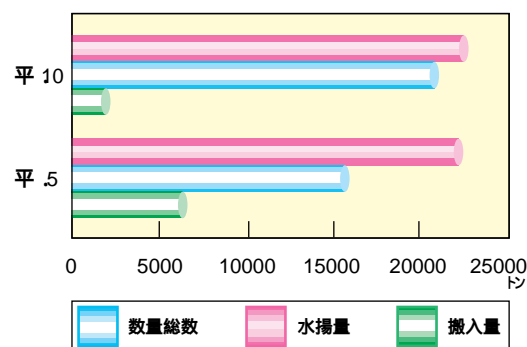
2. 魚市場の概況
年間金額規模、年間取扱数量の動向
水産物の水揚げが行われた県内の魚市場は、前回と同数の二十六市場です。
年間取扱金額は、一億円未満の市場が五市場から九市場へと増え、一億円以上は二十一市場から十七市場へと減少しました。
年間取扱量は前回並みの二万二千四百四十六トンです。

3. 水産加工工場
主とする加工種類別工場数の動向
水産加工工場は八十六工場で、前回に比べ八工場(九%)減少しました。主とする加工種類別工場数は、かまぼこが全体の五十四%となっています。

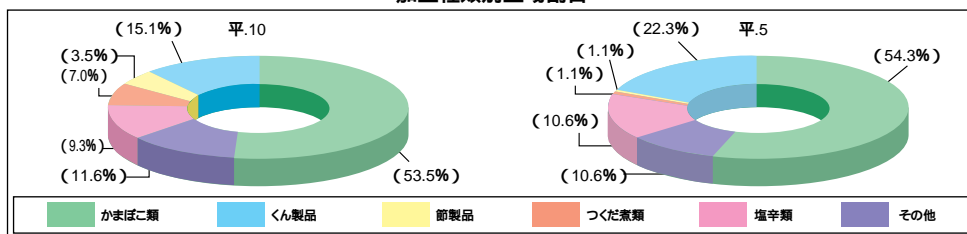


カツオ節の製造

年間取扱量



加工種類別工場割合



4. 海洋レクリエーション施設・年間利用客数の動向
海水浴場が六十四施設と前回より十五施設が増えたのを始め、各施設とも増加がみられます。
海洋レクリエーション施設の年間利用客数は前回より大幅な増加を示しています。

施設・年間利用客数

単位:施設100人

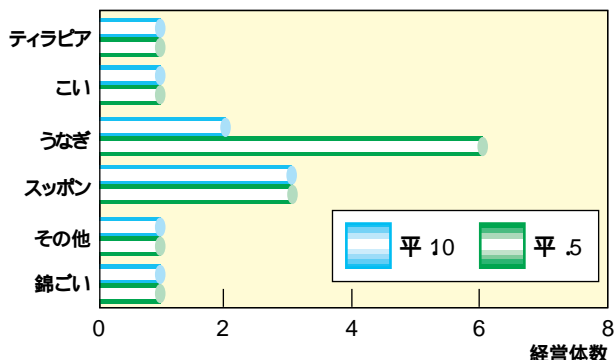
年次	施設・場所数				年間利用客数			
	海水浴場	マリンスポーツ場	キャンプ場	水産物販売	海水浴場	マリンスポーツ場	キャンプ場	水産物販売
第10次 (平5)	64	7	28	20	28820	1054	1384	2602
	49	2	14	6	19657	1036	1157	765
対比(%)	130.6	350.0	200.0	333.3	146.6	101.7	119.6	340.1



2000年 世界農業センサス

沖縄県においては、平成11年12月1日現在で実施します。皆様方の御協力をお願いします。

内水面養殖経営体数



5. 内水面養殖経営体数
養殖業種類別経営体数の動向
内水面養殖経営体は九経営体で、前回より四経営体減少しました。これは、うなぎ養殖経営体の減少によるものです。

むりぶし 9月号訂正 P 11
誤: アリモトキソウムシ
正: アリモトキソウムシ
誤: イモソウムシ
正: イモソウムシ